３．シーズン１(北半球)

１）カナダ　７月４日から７月 10 日

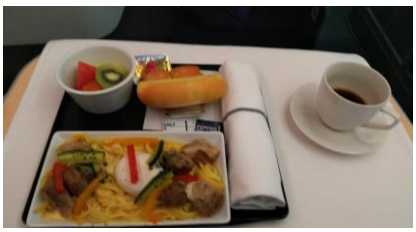
大阪（伊丹）ITM18:00(NH36)⇒東京（羽田）HND19:15

東京（羽田）HND21:55（NH116）⇒バンクーバーYVR14:50

唐突に機内の写真から始めてみる。世界一周旅行の最初の国際線である。東京からバンクーバーまでのフライト時間は約９時間、多少の不安と緊張の中、慣れないビジネスクラスで思い起こされるのは写真に残された機内食しかない。有名な料亭とタイアップしたという料理が出された。ついぞ料亭などで食事をしたことがない。盆と正月が来た。

ボーイング 787
ビジネスクラス

夕食（最初の食事）↑↓



朝食（昼食？2 回目の食事）

バンクーバーに到着、入国審査を受け、無事にカナダ入りをした。荷物を引き取りホテルに向かう。ホテルは空港近くで予約、鉄道を利用する。切符は自販機からクレジットカードで購入、PIN の方法がわからず少し手間取ったがなんとか購入できた。私と同じようなツーリスト（日本人ではない）も同様に手間取っていたのを見ると、後ろに並ぶ人たちに構わず、気にすることなく、日本流の気配りはやめて購入しよ

バンクーバーの鉄道

う。カナダのシーズンは7月から始まる、ツーリストの多さ、そして期間中のホテル代は当初の予算から50%アップが必要であることは考慮しなければならない。

ロッジ風ホテル

バンクーバーでの食事はホテル近くの食堂で取った。グーグル地図でホテル近くの食堂を探す。10分以内で行けそうなところにベトナム料理、シンガポール料理、中国料理、その他の食堂が数軒、軒を並べるところがあった。到着初日はベトナム料理店でフォーをいただいた。時差のためか、汁物であっさりいただくのがよい。ちなみに、2日目はシンガポール店でチキンライスである。カナダに来てアジア巡り、いわゆる移民が多い、移民を受け入れている国なのである。なお、一般にこれらの店ではアルコール類は置いてなく、日本のようにちょっとビールとはいかない、ちょっと寂しい食事であった。

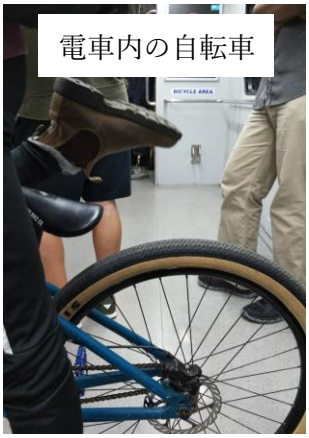
チキンライスのハーフ

バンクーバーはカナダの西海岸に位置する都市である。その名前は私にとって優しさを感じる響きである。旅のスタートをこの地にしたことに関係があるかもしれない。滞在中は、どんよりとした曇り空で、時として時雨てくる。臨海に公園があるなど、後日訪れたシドニーに似た感じがある。ただ、滞在中は天気がすっきりしなかったのは残念である。晴れたバンクーバーを再訪したい。

ここからバンクーバー市内のについて述べてみよう。まず、「ところ変われば品変わる、なにわの葦は伊勢の浜荻」と続くが、横断歩道の信号が面白い。市街地はともかく、ホテル付近の道路を横断するときはボタンを押す。渡る方向を間違わないようにボタンを押さないとその信号は変わらないようだ。

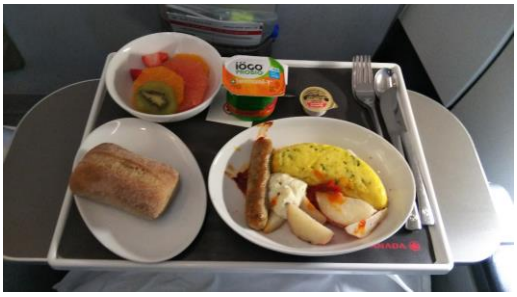
電車は自転車持ち込みOKのようである。各車両にサイクルスペースがある。ラッシュの時はどうなるのだろうと考えるのは日本の世知辛い感覚なのであろう。バスは車体の後ろ側に自転車を乗せる台が取り付けている。積むときはどうするのだろうかと考えるが、わが国では決してみられない風景である。日本でも将来ぜひそうなってほしいものである。

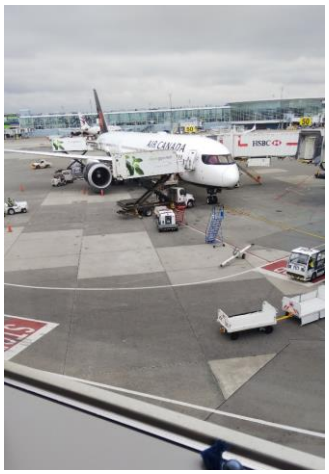
さて、ホテルからバンクーバー市内へは電車を使う。一日券を購入しておくとバスも利用でき便利である。空港からの地下鉄はウォーターフロント駅が終点である。ここバンクーバー港から船を使えば対岸のロンズデール・キーに行ける。このシーバスも一日券で利用できる。また、進行方向右側に行けばバンクーバーのシンボルである蒸気時計がある。この蒸気時計からさらに進むと危ない地域となる。ちょうどそのあたりで救急車が止まっており、全身に入れ墨をした若者が心臓マッサージをされていた。カナダは一部の覚せい剤などの使用できるというが、彼の姿を見てついそのような思いが出てきた。さて、道を左側に取りウォーターフロントを遊歩道に沿ってゆくとスタンレーパークに続く。この公園はバンクーバー市民の憩いの場所で、住むには素晴らしい町であろうと思う。



バンクーバー港の風景、有名な蒸気時計、スタンレーパーク

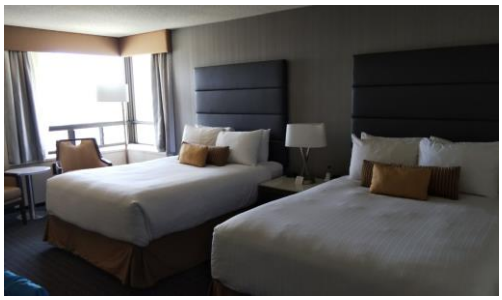
7月7日バンクーバーからカルガリーに向かう。
バンクーバーYVR10:00(AC208)⇒カルガリーYYC12:26
　エアーカナダの国内線ビジネスクラス機内食（朝食）は時間的に早めの昼食である。到着後の昼食を割愛、すぐの行動ができる。





バンクーバー空港とエアーカナダ国内線機内食

　カルガリーはカナディアンロッキーへの中継点である。今回バンフあたりまで足を伸ばしてみようとも考えたが、再訪への期待を込めて（と、言うより異常に高いホテル代に怖気づいて）この町でゆっくりすることにした。空港からはバスでカルガリーの市内に向かう。バスの運転手に、市内のライトレールの最寄り駅で降りたいことを告げて乗る。途中、運転手が交代したがしっかり連絡をしていてくれて、降車の際には駅までの道順も教えてもらった。旅の中でこのようなことは本当にありがたい。「感謝」ライトレールで郊外に向かいホテルの最寄り駅で下車、順調に移動できたのでチェックイン時間より少し早く着くことができた。



ホテルのロビーと部屋

　ホテルはカルガリーの市街から電車で20分弱のところにある。郊外になるとグレードの高いホテルでも少し安くなる。ただ、前日カルガリーのお祭りと重なってしまったため思ったほどでもなかった。ただ、テンガロンハットを被ったゲストが

多くみられ、カナダ西部の雰囲気を感じることができた。

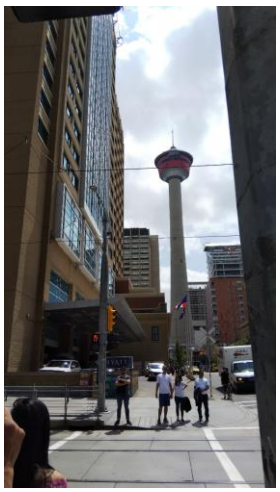
ホテルからの風景

・地平線

・サンセット

・ダブルレインボー

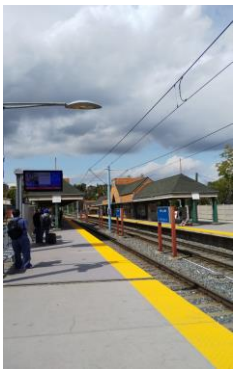
カルガリーの町は、いわゆるカーボーイの町である。その面影は町のいたるところにみられる。カルガリータワーは町のランドマークであったがその周りには高層ビルが建ち、少し肩身の狭い思いをしているようであった。訪問した日は、ちょうどエレベーターの点検日で展望台まで階段で上がったが後日調べてみるとそこまでの高さは 160m あることが分かった。登るには誓約書を書かされて、水ボトルを 1 本渡してくれた。「さあ、これで行ってこい！」ということらしい。途中には係員が待機し、チェックをしている。途中 2 度ほど休憩をしたが意外と自らに体力があることが分かった。日頃の自転車運動のたまものか？日本最北端の温泉で購入したタオルとともにタワーからの写真を載せた。タオルは旅行中時として役立つ、荷物に 1 枚入れておくとよい。



カルガリータワー

ライトレールには 1 日券が便利である。この切符を使い市内を巡るのもよい。日

本の鉄道と違い、いや、地方の鉄道はもうすでに改札口は過去のものでのどかな風景になっているのだが、乗り降りの自由感があっても無賃乗車はいけない。切符はクレジットカードで簡単に購入できる。請求が正しいか少し心配もしたが、後日の請求には間違いはなかった。



←駅の風景
と
キップの自販機→

カルガリーではホテル近くの食堂(Samurai Ramen＆Sushi)に 3 日間通った。この日本食の食堂は、日本で修業をしたという韓国人が、いわゆるオーナーシェフである。アルバイトには韓国からの留学生を雇っているという。こんなところに日本人のツーリストが来ることもないだろうとマスターは思っていたに違いない。あにはからんや、不明瞭な英語、韓国語、明らかな日本語を話す人間にアルバイトの韓国の女性が食いついてくれた。

その前に、今回の旅行中は健康のことにも十分に気を付けなければならない。そのため、食指を誘うものでも怪しさが漂う時は容易に手を出さないことにした。その点、日本食は、それは日本人が調理をしていなくても得体がわかるので日本食を中心に食べることにしていた。ただし、「生もの」は我慢をして食べることはなかった。また、日本食の食堂は日本語(ローマ字含む)のメニューがあるので助かる。それは、現地の人た

揚げ出し豆腐と醤油ラーメン

ちには分からないと思うが、メニューのデザインとしてもよいかもしれない。

写真の揚げ出し豆腐はなかなかの逸品である。カルガリーに来て味あうことができるとは思わなかった。また、醤油ラーメンは日本でよく口にする懐かしい味である。ただ、麺の量が日本の平均の 2 倍はありそうで、カナダというお国柄なのかもしれない。鳥唐揚げのロール巻きはマスターのおすすめで、なかなかの味である。味噌汁に蓮華がついているのは異国を思わせる。

鳥唐揚げのロール巻き

地ビールとマスター

7 月 10 日カルガリーからトロント経由ボストンへ

カルガリーYYC09:10(AC138)⇒トロント YYZ14:55

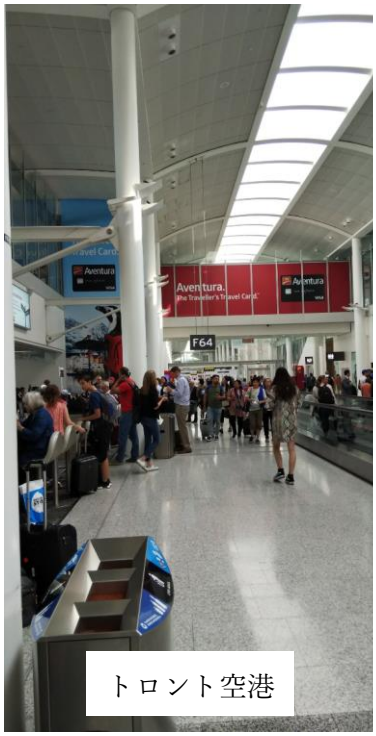
ホテルから空港までは 10 ㎞ほど、今回はホテルの送迎を利用した。今日はトロントを経由してボストンに向かう。写真はエアーカナダ国内線ビジネスクラスのカルガリーからの機内食である。朝食と 2 回出たが最初の食事は撮り忘れてしまった。2 回目である、軽いものをリクエストした。

空からの風景も・・・

エアーカナダの国内線機内食

カナダのトロント空港でアメリカ入国審査がある。次のフライトまでは2時間弱、今回の旅行中最もタイトな時間が要求されるところがトロントである。こんな場合に限って何らかのトラブルが付いてくる、ものである。

入国審査の前にパスポートチェックと写真撮影があった。この時、タイミングが合わず、たまたま下を向いていた時にシャッターが下りた。このため、チェックの厳しいルートに回されてしまった。ここの入国審査は長い時間がかかっているようだし、窓口の数も少ない、審査官も気ままだ。もちろん、こちらの気持ちや都合などお構いなしである。私から数人前、いかにも中東地域風の親子（多分、母と娘）が審査を受けていた。なにを聞かれたのか、もちろんさだかではないがかなりの時間がかかり、ついには別の場所に連れて行かれた！なんだかかわいそうな。さらに、エミレーツの制服を着たCAさんたちが間に割り込んできた。このような調子では、はたして、次のフライトに間に合うのか？この場合次の手を考えておかなければならないが・・・。



トロント空港

やっと私の番になった。型通りの質問のほかに職業なども聞かれた。今までの流れから行くと、きっと不法移民をチェックするためであろう。私の場合「I am just retirement.」英語になっているかわからないが、きっと審査官はこのくそジジイと時間をつぶす気にはならなかったと思う。あるいは日本パスポートが素晴らしいからかもしれない。すぐに通過できた。それでも、搭乗口に着いたのはオープンゲート同時、降機してから1時間はかからないと考えていたが、ふんどしは向こうから外れてしまう。

教訓　「写真撮影の時は注意をしよう！」

そのため、トロント空港のエアーカナダラウンジは使えなかった。残念である。そして、話はもう少し続く。乗客の全員が機内に乗り終えたとき、私の席の少し後ろで騒ぎがあった。どうも、乗客の一人が、荷物を忘れたのか、無くなったのか、大声で怒鳴っていた。その後、彼は飛行機から降りて行った。結局定刻から20分以上遅れて出発した。

時間の流れは気ままである。